

# 大切なペットを守るために 混合ワクチン接種をしましょう

## ワクチン接種を受ける重要性

混合ワクチンを接種することで、死亡率の高い病気や、レプトスピラ症のように人にうつる可能性のある病気の発症・重篤化を予防することができます。  
病気に対する免疫をしっかりとつくるために、初年度は間隔を空けてワンちゃんは3回、ネコちゃんは2回の接種が推奨されます。1歳以降は1年に一度の追加接種を受けましょう。



お散歩で外に出る子、他のワンちゃんネコちゃんに接する機会がある場合はもちろんですが、飼い主様が知らないうちに病原体を運んでしまう可能性もあるため、お外にあまり出ない子でも予防は必要です。

最近ではトリミングサロン・ペットホテル・ドッグランなどの施設を利用する場合に、混合ワクチン接種証明書が必要になることも多くなりました。また、災害時にペットシェルターへの受け入れが困難とならないよう、環境省からも混合ワクチン接種が推奨されています。

このように普段の生活から万が一の備えにも、混合ワクチン接種は重要になっています。

また、ワクチン接種前には体重測定・視診・触診・聴診を行います。  
ワクチン接種を受ける場合は健康状態に問題がないことが前提となりますが、このような診察が病気の早期発見や、身体に起きている異変に気付くきっかけにもなります。

## 混合ワクチンで予防できる病気は？

混合ワクチンは種類によって予防できる病気が異なります。どのワクチンが適しているかは、その子の年間を通した生活環境が変わってきます。獣医師と相談してワクチンの種類を決めましょう。

## 犬の混合ワクチン

予防できる病気	特徴	6種	8種
犬ジステンパー	ジステンパーウイルスによる、肺炎感染、または強熱により感染する犬の代表的な病気。感染力が強く、死亡率も高い。神経症状などが起こり、拾っても後遺症が出ることもある。 症状：発熱、目やに、鼻水、くしゃみ、食欲不振、下痢、神経症状など	🐾	🐾
犬伝染性肝炎	犬アデノウイルス1型感染症。アデノウイルス1型による結核感染で、肝炎を主とし、突如死してしまう重症の場合も多いとされている。 症状：嘔吐、下痢、発熱、食欲不振、目が白く濁るなど、子犬の場合突然死もある。	🐾	🐾
アデノウイルス2型感染症	アデノウイルスによる感染症で、呼吸器系疾患を引き起こす。 症状：咳、鼻水、発熱、結核炎など	🐾	🐾
大パラインフルエンザウイルス感染症	大パラインフルエンザウイルスにより、ケンネルコフ（犬伝染性気管支炎）と呼ばれる呼吸器系疾患を引き起こす感染症。感染力が犬同士や人間、現病や、咳、くしゃみなどの飛沫から感染する。 症状：鼻水、涙、目やに、結核炎など	🐾	🐾
大パルボウイルス感染症	大パルボウイルスによる結核感染で、チリやホコリに混じって感染する重症の伝染病。免疫力のない子犬が呼吸器系により突然死してしまう心筋炎型と、重しい下痢、嘔吐などを引き起こす腸炎型がある。 症状：心筋炎型→突然の呼吸困難による死亡 腸炎型→血便が混じる重しい下痢、嘔吐、脱水、発熱など	🐾	🐾
犬コロナウイルス感染症	結核感染で、1〜2日ほどの潜伏期間を経て、下痢、嘔吐の症状を引き起こす。パルボウイルスと混合感染すると更に重症となるため、同時予防が大切。 症状：下痢、嘔吐	🐾	🐾
レプトスピラ症（カニコラ型）	感染した動物（野ネズミなど）の尿や、汚染された土壌との接触で感染する。犬だけでなく人間や他の動物にも感染の可能性がある伝染病。 症状：黄疽出血腎一葉性の吐血や嘔吐、嘔吐、下痢		🐾
レプトスピラ症（イクテロヘモラジー型）	カニコラ型・嘔吐、下痢による結核症状、高熱、食欲不振、肝障害、腎障害、血尿など		🐾

## 猫の混合ワクチン

予防できる病気		3種	5種
猫ウイルス性鼻気管炎	ヘルペスウイルスによる感染症で、感染した猫のくしゃみ、涙などから感染する。 症状：発熱、目やに、鼻水、くしゃみ、食欲不振、元気がなくなる、脱水症状など	🐾	🐾
猫カリシウイルス感染症	カリシウイルスによる感染症で、猫ウイルス性鼻気管炎の症状とよく似ている。悪化するると口内に潰瘍ができ、肺炎を起こして死亡することもある。 症状：発熱、目やに、鼻水、くしゃみ、食欲不振、脱水症状など	🐾	🐾
猫白血球減少症	猫カリシウイルスが病原体で、白血球が急速に減少する感染症。感染力が非常に強く、感染した猫の排泄物などから感染する。体力のない子猫は1日で死亡してしまうこともある。 症状：発熱、重しい嘔吐、血尿、下痢、食欲不振など	🐾	🐾
猫白血病ウイルス感染症	オンコウイルスによる感染症で、感染した猫の咬傷による唾液や血液、猫の尿などにより感染する。感染力が弱く、感染した猫の排泄物などから感染する。感染すると免疫力が低下し、さまざまな病気を引き起こす。有効な治療法がないため、死亡率が高いといわれている。 症状：白血球、リンパ球、血小板、赤血球減少、発熱、脱水、下痢、結核炎、鼻水		🐾
猫クラミジア感染症	感染した猫との接触により、鼻が眼や鼻から侵入して感染する。慢性持続性の結膜炎を起こし、重症の場合、失明につながることもある。 症状：粘着性の目やにが出る結核炎、くしゃみ、眼、鼻炎など		🐾

※猫の5種ワクチンは  
取り扱いのない病院もございます。

## ワクチン接種で気を付けることは？

- ・稀にアレルギー反応を起こしてしまうことがあるので、接種後はなるべく安静にしてよく様子をみてあげましょう。
- ・万が一体調が悪くなった場合にもすぐに対応できるよう、午前中か午後の早めの時間帯の接種をおすすめしています。
- ・接種後すぐはトリミングやペットホテルなどご利用いただけない場合がありますので、そういった予定と重ならないようご注意ください。

混合ワクチンを接種することは、おうちの子を守るだけでなく、感染症の蔓延を防いだり、人畜共通感染症を防止する観点からも非常に重要です。  
必要な予防が分からないという方にも適切な予防医療をご提供できるようサポートいたします。お気軽にお問い合わせください。